

令和５年度 第２回天王寺区教育会議（会議要旨）

日 時：令和６年３月６日（水）１９時００分～２０時００分

場 所：天王寺区役所 講堂

出席者：〔学校協議会〕

高岡（達）委員（夕陽丘中）、米川委員（天王寺小）

〔区政会議子育て・教育班〕

大野委員、岡崎委員、栗谷委員、平嶋委員、山田委員

〔学校〕左海校長（聖和小）、神田校長（夕陽丘中）

〔区役所〕加藤区担当教育次長、高野区教育担当部長、渡邊区教育担当課長、

寺戸区教育担当課長、近藤区教育担当課長代理、森本区教育担当課長代理

傍聴者：５名、報道関係者：なし

○天王寺区の教育に関する取組について

資料「天王寺区の教育に関する取組について」により渡邊区教育担当課長より説明

○委員意見及び回答（学校教育の支援（学力・教育環境向上の取組）、社会教育関連の取組）

【学校教育の支援について】

- ・外国語サポーターについて素晴らしい取り組みと思うが、サポーターにより、学校や保護者の意図とずれないように留意しながら事業をすすめてほしい。

→各学校ともご意見を共有させてもらう。

- ・子どもサポートネット事業について、本事業は、学校、家庭、区役所の三者が連携して、支援対象を掘り起こしていくところが重要と考える。

→学校にて、担任教諭にチェックシートを記載してもらい、シートの内容から支援対象の早期発見に努めている。

また学校では、児童がタブレットを用いてその日の気分を晴れ、くもり、雨とゲーム感覚で回答するアイテムを利用することで、支援対象の発見に取り組んでいる。

- ・外国語サポーターは主に保護者対応なのか。急な対応は可能なのか。

→保護者対応や説明会等での通訳を想定している。

外国語サポーターは毎月の計画による派遣であり、即日対応は困難である。

その場合、ポケトーク等の機器や教育委員会の新たな取り組みであるオンライン通訳等で対応することになる。

- ・職場体験は、体験先の調整も支援されるのか。

→職場体験は学校にて調整する。区役所は職場体験先の窓口を紹介、講演会の講師費用というかたちで支援している。

- ・スクールカウンセラーについて、相談件数が減っているようだが、どう理解したら良いのか。

→件数は、同一の人が繰り返し相談することもあり、一概に数字から判断することは難しい。

- ・特別支援について、最近は発達障がいに対する理解が進むなか、学校への支援を充実すべきだと考える。元校長など、経験豊かな方による支援を受けることはできないのか。

→教室には担任教諭以外に、各種支援サポーターが授業に入られている。

支援サポーターは学校と調整のうえ、教育委員会から派遣される。

- ・連携事業の中学校合同文化祭に参加したが、ステージ発表、展示等非常に素晴らしい内容だった。しかし残念なことに、参加者が限られているように感じた。今後も同様に開催して行かれるなら、広報の方法を考えて発信してほしい。

→貴重な意見ととらえ、今後しっかり取り組んでいく。

- ・いきいき活動で、特別支援が必要な児童が増えていけば、対応が困難ではないのか。

→学校協議会でも、いきいき活動の利用率は伸びていないとの意見は出ている。

一方で、講師の確保も課題であり、全体的に足りていないとのこと。

講師確保のために、時給をあげることも検討していると聞いている。

- ・パートの人など、年金の関係から収入の調整をしないといけないケースもあり、時給をあげても必ずしも確保につながらないのではないか。

→大学生が中心となるが、教育大学の学生によるいきいき活動への参画も課題である。

- ・図書館開放を充実する取り組みは、引き続き継続してほしい。インターネットで情報を調べる時代になってはいるが、やはり読書で読解力を育むことは大事だと思う。
- ・全体的に区役所の取り組みについては重要であり、感謝しかない。

【社会教育関連の取組について】

- ・小中学生学習支援事業の天王寺塾では、参加可能枠を拡充できないのか。
- ・予算の都合等あるかと思うが、利用可能な場所を増設することを要望する。

→予算や場所の関係で難しいと考えるが貴重な意見としていただく。